

環境会計

環境保全コスト

2020年度は、営業所や倉庫照明などのLEDへの切り替えを中心とした省エネ対策を行いました。また、コカ・コーラのグローバル目標である「World Without Waste」活動に基づき、空容器の自主回収テストを開始し、回収したPETボトルは「ボトルtoボトル」としてリサイクルされています。今後も「廃棄物ゼロ社会」を目指して取り組みを継続していきます。

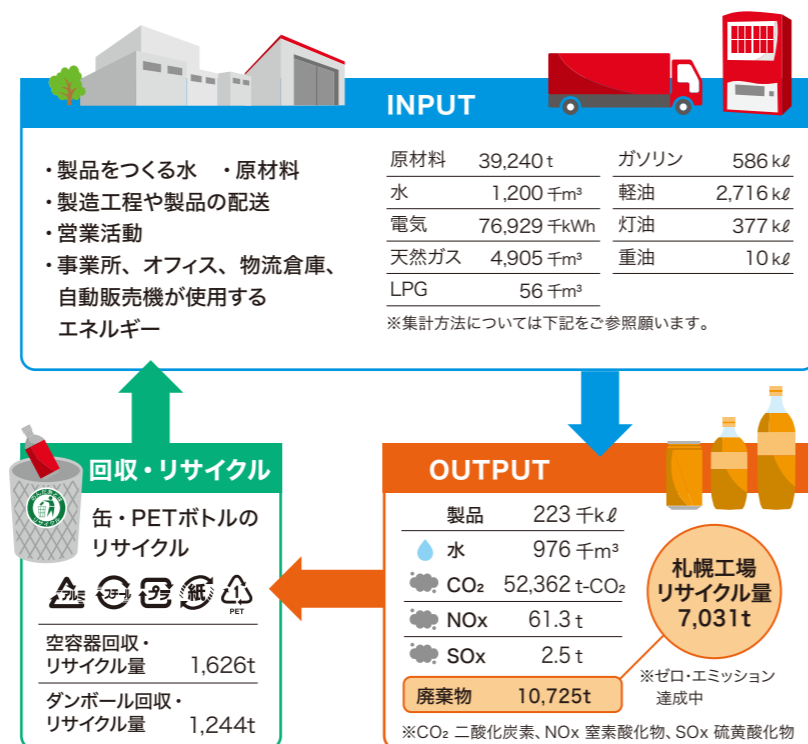
(単位：千円)

項目	主な取り組みの内容	2019年		2020年		
		投資額	費用額	投資額	費用額	
1.事業エリア内コスト		計	67,202	158,331	48,570	157,546
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	23,732	27,582	27,140	28,033	
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	43,470	21,524	20,800	21,815	
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	13,183	0	14,992	
	ハイブリッド車のリース費用	0	28,923	0	27,670	
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル※	0	66,085	630	64,318	
	自動販売機の処理・リサイクル	0	1,034	0	718	
2.上・下流コスト		計	0	83,076	3,283	80,096
	空容器の回収・リサイクル※	0	18,456	0	18,894	
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	28,581	3,283	25,324	
	再商品化実施委託料	0	36,039	0	35,878	
3.管理活動コスト		計	0	30,793	1,269	28,717
	環境負荷の測定	0	21,915	0	21,901	
	EMS構築・運用、環境コミュニケーション	0	8,878	1,269	6,816	
4.社会活動コスト		計	0	12,474	0	13,705
	業界団体活動、環境支援活動 他	0	11,974	0	13,205	
	本社構内緑化保守	0	500	0	500	
		合計	67,202	284,674	53,122	280,064

※今回より集計方法を変更

マテリアルバランス

事業活動において必要とされる資源・エネルギーの量(インプット)と、それに伴う廃棄・排出量(アウトプット)の関係を表したものをマテリアルバランス(物質収支)と呼びます。当社では生産活動における環境負荷を把握した上で、これらの削減に積極的に取り組んでいます。



ゼロ・エミッション

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理をすべて廃止して、廃棄物全量をリサイクルするゼロ・エミッションに取り組んでいます。コーヒーと茶製品の生産量増加に伴って廃棄物排出量は増加傾向にありますが、2001年に達成したゼロ・エミッションを継続して達成しています。

ゼロ・エミッションの内容 (単位：t)

リサイクル前	リサイクル後	工場廃棄物排出量		
		2018年	2019年	2020年
コーヒーかす・茶かす	▶ 肥料	5,814	6,384	6,600
紙類	▶ 再生紙、ダンボール	163	174	160
プラスチック類	▶ 再生プラスチック、固形燃料	145	153	133
金属類	▶ 再生金属	84	80	80
汚泥	▶ セメント原料、肥料	59	8	43
ガラス類	▶ ガラスびん	0	0	1
一般廃棄物	▶ 発電、暖房燃料	13	16	14
合計		6,278	6,815	7,031

環境効果

各種節電対策に加え、新型コロナウイルスの影響で営業活動や工場での生産が制限されたことでエネルギー使用量が全体的に減少し、CO₂排出量も減少しました。

また、有価物の売却額については、資源物の市況価格下落により大きく減少しています。

今後も地球温暖化対策に向けた実行計画の策定や省エネ活動、リサイクルの推進等、環境負荷低減に取り組んでいきます。

環境保全効果

項目	単位	2018年	2019年	2020年	対前年増減率
		実績値	実績値	実績値	
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,271,697	1,192,699	1,101,655	-7.6%
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	59,909	56,585	52,362	-7.5%
NO _x 燃焼設備排出量	t	7.1	7.1	6.6	-6.9%
水使用量	千m ³	1,244	1,262	1,200	-4.9%

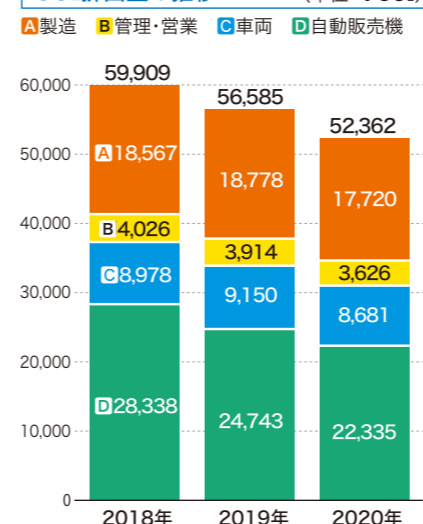
〈集計方法について〉

- ・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。(SO_xは排出量が微量であるため、環境保全効果の表には記載していません。)
- ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会CO₂排出原単位より算出しています。
- ・NO_x排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
- ・SO_x排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
- ・管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
- ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフトおよび当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。

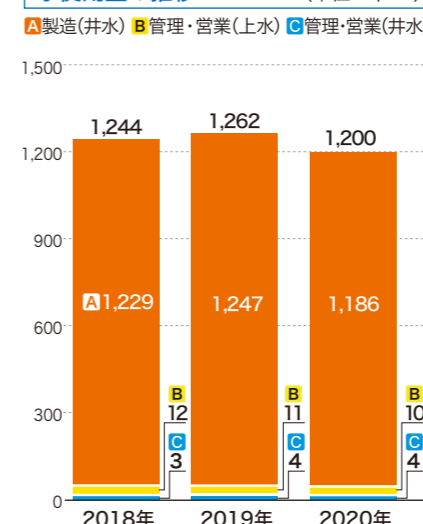
環境保全対策に伴う経済効果

内容	2018年	2019年	2020年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶・PET、古紙等)	29,789	26,523	16,011

CO₂排出量の推移 (単位：t-CO₂)



水使用量の推移 (単位：千m³)



使用電力量の推移 (単位：千kWh)

